

会 議 名	第3回 港区ヤングケアラー相談支援等事業者選考委員会
開 催 日 時	令和8年6月3日（水）午後6時30分から午後9時30分まで
開 催 場 所	港区子ども家庭総合支援センター 2階会議室3
委 員	（出席者）5名 前川委員、横尾委員、結城委員、川松委員、菊池委員 （欠席者）なし
事 務 局	子ども家庭支援部子ども家庭支援センター所長、子ども家庭支援センター 地域連携担当係長、地域連携担当
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）A事業者（30分間） （2）B事業者（30分間） （3）C事業者（30分間） 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 付 資 料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（3事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布） 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書

会議の結果及び主要な発言（発言順）

（発言者）

- 1 開会
（委員長より開会の挨拶）
（事務局から配付資料の確認）
- 2 第二次審査実施概要について
（事務局から資料1について説明）
- 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施
（1）A事業者（30分間）
【A事業者のプレゼンテーション】

A委員

短い時間の中でまとめていただき、大変だったことと思います。
副読本の20ページには、学校や児童館などでの普及啓発について記載がありますが、SNSやXでの周知に加えて、子どもたちと直接関わる支援者との関係性の中で、どのようにアウトリーチしていくお考えでしょうか。
ヤングケアラーは把握が難しい面もあるため、具体的な構想をお聞かせください。

A事業者

現在の取組としては、実際の事例になりますが、公立の小・中学校の養護教諭向けにDMを送付しております。そこから、オンラインサロンやLINEのオープンチャットといった取組を知っていただく流れを作っています。
ヤングケアラーは、子ども自身が情報を知っても、直接相談につながるケースはほとんどありません。そのため、支援者がつないでいただく形が現状では主流です。
また、18歳以上になると、「相談したい」というよりは、「一緒に参加したい」「関わりたい」という方が多くなります。いずれにしても、自ら相談に来るケースは多くありません。広報手段としては、Xとの相性が良いと感じています。発信する言葉によって閲覧数も伸びており、一定の効果はあります。
ただし、直接相談につながるというよりは、「こうした場がある」と認知され、将来的にアクセスできる状態を作る段階にあると認識しています。

A委員

やはり、教員などさまざまな支援者との懇談の機会をあわせて設けていくことが重要ではないかと考えていますが、その点についてどのようにお考えでしょうか。

A事業者

現在、教育委員会と連携して取組を進めております。
その中で、先ほども申し上げたとおり、子ども自身が直接「助けて」と言うことは難しい場合が多いため、私どもとしてはまず参加しやすい場づくりとしてイベントを実施しております。具体的には、リアルな交流の場として、隔月でバーベキューなどのイベントを開催し、支援者の方と一緒に参加していただく形をとっています。
こうした場において、家庭以外にも頼れる場所や人がいるという実感を持っていただくことができ、その結果として、参加された方の変化も顕著に見られています。そのため、このような対面の場は、支援につなげていくうえで非常に重要であると考えています。

B委員

オンラインサロンやピアサポートはスタッフさんがされていますが、そのファ

	シリテーターをおこうのは専門のスタッフになりますでしょうか。
A事業者	基本的には、専門職として精神保健福祉士が関わる体制としております。あわせて、ヤングケアラーの当事者であるピアスタッフも含めて、運営に関わっています。
B委員	ピアスタッフはどの程度いらっしゃるのでしょうか。また、どのようにリクルートされているのか教えてください。
A事業者	リクルートというよりも、もともと虐待相談などで当団体に関わっていた元ヤングケアラーの方々がいらっしゃり、その方々とラジオ等で発信活動を行ってきた経緯があります。その中で、「自分も関わりたい」と申し出てくださった方々が、現在ピアスタッフとして一緒に活動しています。
B委員	ピアスタッフについては、一定の研修や適性の確認なども行われているのでしょうか。
A事業者	いわゆる形式的な研修というよりも、基本は傾聴を重視しています。アドバイスをするというよりは、まずはしっかり話を聞くという関わりを大切にしています。また、活動後には振り返りを行い、当事者としての視点からの気づきや意見をスタッフ間で共有し、それを次の支援に活かしています。
B委員	もし緊急性が高いケース、例えば虐待が疑われるような状況が把握された場合は、どのような対応フローになりますか。
A事業者	まず、港区に配置されているヤングケアラーコーディネーターにつなぐことを想定しています。あわせて、虐待が疑われる場合には児童相談所と連携し、さらに緊急性が高い場合は警察への通報など、迅速に適切な機関につなげる体制で対応していきます。
C委員	私どもとしては、今回の事業で実施していただきたい内容として仕様書を提示させていただき、その中でオンラインサロンやピアサポートについては、各回2時間程度の実施を想定しております。一方で、今回ご提案いただいた申込書では、オンラインサロン・ピアサポートともに1時間程度と、仕様書よりも短い時間でのご提案となっております。この点について、仕様書との時間の差異が生じている理由をお聞かせいただけますでしょうか。また、限られた時間の中で、本事業をどのように工夫して効果的に実施していくお考えかについても、あわせてご説明いただければと思います。
A事業者	現在、私どもが90分で実施している理由がいくつかございますが、やはりこの時間が参加者にとって最も適した時間帯であると考えております。また、実施後には約30分程度、振り返りの時間を設けており、支援を受ける側だけでなく、支援者側やスタッフのケアも含めて対応しております。そのため、全体としては毎回2時間以上の取組となっております。このような背景から、実際に参加者向けに提供するプログラムとしては、90分程度が最も適していると認識しております。もっとも、仕様書に基づき最大2時間での実施が必要な場合には、それに応じて内容を調整することは可能でございます。
C委員	ピアサポートはどうでしょうか。

A事業者	<p>ダイアログも、同様にその時間内で実施しております。そのため、仕様として最大時間が必須である場合には、そこについても変更することは可能です。</p> <p>ただ、現在実施している中では、その時間帯になると少し集中が途切れてしまう、いわゆる「だれてくる」場面も見られます。一方で、逆に参加者の思いが深く引き出されてくる部分もあり、運営としては非常に難しいところだと感じています。あまりに気持ちが開きすぎてしまう状況もリスクがあり、そのままの状態を終了してしまうのは適切ではないと考えています。特に、参加者が感情を開いたままの状態が残ってしまうことには注意が必要です。現在はオンラインでの実施となり、支援者側からは画面上での関わりにはなりますが、その点も含めて配慮しながら運営しています。なお、区の事業として実施する場合には、その後のフォローアップも対応可能であると考えていますが、現状としてはこのような形で実施しております。</p>
C委員	<p>私からもう一点、質問させてください。今回ご提案いただいているピアサポートの実施方法についてですが、仕様書では対面またはオンラインで、参加者の状況に応じた形での実施をお願いしております。</p> <p>一方で、今回のご提案では、オープンダイアログを中心としたオンライン対応が主となり、対面での実施について具体的なイメージが少しつかみにくいところがありました。</p> <p>そのため、対面で実施される場合の具体的な方法や体制、また実施にあたっての条件等について、どのようにお考えか教えてください。</p>
A事業者	<p>基本的に、これまでの実績の中では、対面での実施を希望されるケースはほとんどありませんでした。仮に対面で行う場合には、私どもで場所を確保し、参加者に来ていただく形になりますが、訪問型での対応は現実的には難しい状況です。そのため、現状としてはオンラインでの実施が中心となり、基本的にはオンラインで完結する形を想定しております。</p>
D委員	<p>電話対応は必要に応じて行うというご提案になっているかと思いますが、電話対応の具体的な体制や受付方法について、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。</p>
A事業者	<p>基本的には、専任の担当者を1名配置し、携帯電話の番号を設定した上で、対応時間帯を設けて電話を受ける体制としております。その上で、電話でご相談を受けた内容に応じて、継続的な支援が必要と判断される場合には、その後の面談につなげる形を想定しています。</p> <p>面談の方法については、オンラインでの実施を基本としており、先ほど申し上げたとおり、現時点では対面での実施はあまり想定しておりません。実際に、これまで子ども本人から対面での対応を希望されたケースはございません。</p> <p>一方で、保護者からの相談については一定程度想定されるため、その場合には、オンラインまたは面談の形式を状況に応じて選択し、対応していくことを考えております。</p>
E委員	<p>資料を拝見し、ヤングケアラーが一方向的に支援を受ける存在として捉えないという考え方や、プレゼンでも繰り返しお話のあった自己決定権を大切にされている点については、本事業において非常に重要な視点であると感じました。</p> <p>その上で、1点質問させてください。22ページに、オブザーバーとして大学教授の記載がありますが、どのような形で事業に参加され、また本事業の中でどのように活用されているのかについて、具体的に教えてください。</p>

A事業者	<p>岡山大学の教授にオンラインサロンへ参加いただき、主に終了時に総括としてコメントをいただく形で関わっていただいています。</p> <p>また、私たちの議論を補足するような観点から、ご意見をいただくこともあります。</p>
E委員	<p>当事者同士の対等な関係性で成り立っているオンラインサロンの中に、オブザーバーとして大学教授が入ることについて、雰囲気への影響などは問題ないのでしょうか。</p>
A事業者	<p>はい、その点については特に問題は感じておりません。専門家として主導的に発言されるというよりは、あくまで当事者に寄り添う姿勢でご参加いただいております。傾聴を大切にして関わっていただいています。そのため、上下関係が生じることなく、参加者と対等な立場で関わっていただけていると感じています。</p>
E委員	<p>26ページの事業全体に関する記載についてお伺いします。</p> <p>こちらでは、家族が安心して利用できるよという点が示されていますが、本事業における支援対象はヤングケアラーとその家族であると理解しております。ヤングケアラーご本人への支援については、先ほど丁寧にご説明いただきましたが、家族が安心して利用できるという点について、実際の業務の中でどのような工夫をされているのか、具体的に教えていただけますでしょうか。</p>
A事業者	<p>実際に私たちが活動する中では、保護者の方が支援の必要性に気づいていないケースが多いという点が、大きな課題であると認識しています。</p> <p>そのため、保護者と子どもの中に入り、必要性について丁寧に伝えながら橋渡しをしていくような立ち位置で関わるのが重要であると考えています。</p> <p>その上で、相談対応を通じて、状況に応じた必要な支援や情報を提供し、結果として適切な支援につながるよう取り組んでいきたいと考えています。</p>
E委員	<p>オープンダイアログ形式で実施されているとのこと、ご担当の方々には福祉分野での経験も豊富でいらっしゃるかと理解しております。オープンダイアログは、福祉のみならず、医療や心理の分野でも重要なアプローチとして位置づけられているものと認識しております。</p> <p>その上で、今回のピアサポートの実施にあたり、オープンダイアログを取り入れる中で、どのような工夫をされているのか、特にその点に焦点を当ててご説明いただけますでしょうか。</p>
A事業者	<p>以前は、オープンダイアログのように、一人の方に焦点を当てた形でオンラインサロンを実施していたわけではありませんでした。</p> <p>オープンダイアログを取り入れた理由としては、やはり一人に焦点を当てて対話を進めていく中で、その方ご自身が気持ちを見つめ直す機会になると感じただけです。</p> <p>また、周りで聞いている参加者との対話の中から、新たな発見や気づきが得られる点も非常に効果的であると考えております。</p> <p>さらに、ダイアログが終わった後も、それぞれが自分の生き方を考えるきっかけやヒントにつながると考え、このようなオープンダイアログの形式を採用するようになりました。</p> <p>(A事業者退出)</p> <p>(採点)</p>

	<p>(2) B事業者 (30分間) 【B事業者のプレゼンテーション】</p>
A委員	職員の体制についてお伺いします。常時専任で配置されるのか、それとも他業務と兼務される形になるのか、どのような体制で運営されるのでしょうか。
B事業者	はい。相談員の配置につきましては、専任ではなく、他業務との兼務体制で対応させていただく予定です。
A委員	その「兼務」というのは、具体的にはどのような業務との兼務になりますか。
B事業者	はい。基本的には、当社およびパートナー企業が受託しているSNS相談業務全般との兼務になります。内容としては、ヤングケアラーに関する相談のほか、児童虐待、親子関係、自殺対策、学校教育関連など、さまざまな分野の相談に対応しています。
A委員	ということは、担当者の方が港区以外の案件と兼務しながら対応されるイメージでしょうか。
B事業者	はい。そうです。
B委員	似たような質問になりますが、自治体からの受託事業との関係で、スタッフの役割分担についてお伺いします。 それぞれの自治体ごとに担当を固定して配置しているのか、それとも固定せず柔軟に対応されているのか、その点を教えてください。
B事業者	はい。自治体ごとの業務について専任の担当を置く体制は取っておりません。特定の分野や自治体に限定するのではなく、さまざまな領域に対応できる相談員を育成し、対応する体制としております。
B委員	相談員の方が多数いらっしゃるということですが、その場合、対応する人が入れ替わる形になるのでしょうか。
B事業者	シフト制で運用しておりますので、日によって担当が変わることはございますが、1日の中で頻りに担当者が入れ替わるということは基本的にありません。
B委員	オンラインサロンやピアサポートについては、継続して同じスタッフが担当されるのでしょうか。
B事業者	オンラインサロンおよびピアサポートにつきましては、通年を通して同じスタッフがファシリテーターを務める体制としております。
B委員	そのスタッフは、港区専任ということでしょうか。
B事業者	いいえ、専任ではありません。他の自治体から受託しているオンラインサロン等の業務も担当しております。 ただし、日程が重複することなく、それぞれの業務は適切に分けて対応しているため、運営に支障が生じることはありません。
B委員	夜間・休日相談についてお伺いします。 LINEなどのチャットでの対応は、定型的な文面で回答される形なのでしょう

	<p>うか。それとも、個別の状況に応じて対話を重ねながら対応していく形になるのでしょうか。</p>
B事業者	<p>基本的な定型文はいくつか準備しておりますが、あくまで補助的なものとして活用しております。</p> <p>実際の対応にあたっては、相談者一人ひとりのお話をしっかりと伺い、その内容に応じて相談員が考えた上で、個別に対応していく形を基本としております。</p>
C委員	<p>私の方からいくつか質問させていただきたいと思います。</p> <p>先ほどのご説明にも関連しますが、従事スタッフの方を多数ご提案いただきありがとうございます。それぞれの方が兼務を前提とした体制であり、港区専属ではないという点は理解しております。</p> <p>その上で、オンラインサロンや継続的な支援が必要なケースについては、継続して対応いただけるとのことでしたが、他の業務との兼務の中で、港区の事業にどの程度の比率で関わっていただけるのか、その点について教えてください。</p>
B事業者	<p>オンラインサロンおよびピアサポートについては、本事業を優先的に位置づけて対応する想定です。</p> <p>ファシリテーターについては、他の自治体でも同様の業務を担当しておりますが、実施のタイミングが重複しないように調整しており、本事業の実施に支障は生じない体制としております。</p> <p>また、相談対応については、ピアサポートを担当するファシリテーターがそのまま相談員としても関わる体制としております。全体としては、両社で連携しながら役割分担を行い、安定した対応ができるようにしております。</p>
C委員	<p>兼務の割合については、具体的な数字で示すことが難しい部分はあるかと思いますが、その点はいかがでしょうか。</p>
B事業者	<p>当社が受託しているSNS相談業務は複数あり、時間帯もそれぞれ異なりますが、体制としては全体の業務状況を常に管理し、必要な人員を確保できるようにしております。</p> <p>そのため、港区の相談についても、相談があった場合には速やかに対応できる体制を整えております。</p>
C委員	<p>次に、従事されるスタッフの専門性についてお伺いします。</p> <p>資格をお持ちで経験もある方々だと思っておりますが、経験年数としては比較的これから積み重ねていく段階の方も多く見受けられます。</p> <p>その中で、経験のある方がリーダーとして全体を牽引するような体制については、どのように考えていらっしゃいますか。</p>
B事業者	<p>提案書に記載している経験年数は、当社における勤務年数を示しています。</p> <p>実際の経験値については、勤務形態等によって差があるため、単純な年数だけでは測れない部分もあると考えています。</p> <p>そのため、相談員の中にはスーパーバイザーを配置し、リーダーシップを発揮できる体制としています。</p> <p>スーパーバイザーについては、資格に加え、これまでの相談対応経験や実務能力などを踏まえて選定しております。</p>
C委員	<p>スーパーバイザーの経験年数としては、どの程度を想定されているのでしょうか。</p>

B事業者	<p>経験の長い方で10年以上、短い者でも3年から4年程度の経験を有しています。また、スーパーバイザーの上位にあたる業務責任者として、臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、約20年の実務経験を有する者を1名配置する予定です。</p>
D委員	<p>私も先ほどの経験年数のお話を伺う中で、御社での勤務年数が概ね1年から3年程度とのことでしたので、正直なところ、やや不安に感じる部分もございます。その中で、御社での経験が比較的浅い方も含まれる状況において、どのように今回の業務内容を理解させ、人材育成に取り組んでいくのか、その点について教えてください。</p>
B事業者	<p>まず、当社の相談員については、必ず有資格者であることを前提としており、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士のいずれかの資格を有している者を最低条件としております。</p> <p>人材育成の面においては、まず採用段階で、SNS相談に関する基本的な適性や素養を確認した上で、当社の理念について説明し、それに沿った対応ができるかどうかを判断しております。あわせて、ロールプレイも実施し、相談対応の視点や考え方を確認した上で採用しています。</p> <p>採用後は、必ず初期研修を実施し、当社の基本的な対応方針や必要なスキルを習得いただきます。さらに、各事業に関する理解を深めるための座学研修や専門知識の研修、ロールプレイを繰り返し行い、実際の相談対応につなげていきます。</p> <p>また、研修の各段階でスーパーバイザーがフィードバックを行い、継続的に育成を図っています。なお、一定期間の試用期間も設けており、スキルや適性が十分でない場合には見直しを行う体制としています。</p>
D委員	<p>もう一点、夜間・休日の相談についてお伺いします。 オンラインやLINE、ブラウザチャットについてはご説明がありましたが、電話相談はどのような形で実施される予定でしょうか。</p>
B事業者	<p>電話相談につきましては、ブラウザチャットに音声対応機能が付随しているため、利用者の希望があった場合には、そちらを活用して音声での対応を行うことを想定しております。</p> <p>ヤングケアラーに関する相談については、他自治体の状況も踏まえると、電話による相談ニーズはそれほど高くないという認識です。</p> <p>また、電話専用回線を常時設ける場合、専任で対応する人員が必要となり、体制面やコスト面での負担が大きくなります。そのため、現時点では専用の電話番号を設けるのではなく、基本はチャットを入口とし、必要に応じて音声対応を行う形を想定しております。</p>
D委員	<p>つまり、あらかじめ電話番号を設けて随時受け付ける形ではなく、あくまでブラウザチャットを入口として、必要に応じて音声対応に切り替えるという運用ですね。理解しました。</p>
E委員	<p>ヤングケアラーを一つの枠で捉えるのではなく、多様性を大切にされている点は非常に重要だと感じました。</p> <p>また、ピアサポートにおいて安全感・安心感を重視しつつも、過度に身内的な関係になりすぎないように配慮されている点も、ご経験に基づいた大切な視点だと受け止めています。</p> <p>さらに、小さな経験の積み重ねにとどまらず、そこから学び、それを次の取組に反映している様子も拝見できました。</p>

B事業者	<p>その上で、港区で実施するにあたり、アンケート結果などもしっかり踏まえてご提案いただいていると感じていますが、いわゆる港区ならではの相談・支援事業として、特に重視したいポイントがあれば教えてください。</p> <p>はい。港区の特性として、他の自治体と比べて経済的に恵まれているように見える地域である一方で、外からは見えにくい課題を抱えているケースもあると認識しています。</p> <p>一見すると安定しているように見える家庭の中にも、実際には困難を抱えている子どもたちがいるという点を前提に、支援を行う必要があると考えています。</p> <p>そのため、外形的な情報にとらわれず、相談者である子ども一人ひとりの置かれている背景や家庭環境にしっかりと目を向けること、そして本人の意思や気持ちなどを丁寧に聞き取ることを重視していきます。</p> <p>その上で、どのような関わり方が適切かを相談者とともに考えていく姿勢を、本事業では特に大切にしたいと考えています。</p>
E委員	<p>続いてピアサポートについては、オンライン（ZOOM）と対面の双方が想定されていますが、実際の運用としてはどちらが多いのか、またそれぞれのメリット・デメリットについて、ご経験から教えてください。</p>
B事業者	<p>これまでさまざまな地域でヤングケアラー関連の取組に関わってきた中で、傾向として、地方では対面を選択されるケースが多く、都市部ではオンラインのニーズが高いと感じています。港区の特性を踏まえると、オンラインの利用が中心になる可能性が高いと想定しています。</p> <p>対面のメリットとしては、実際に顔を合わせることで関係性を築きやすく、「どのような人が支援しているのか」が分かる安心感につながる点があります。また、相談からピアサポートやオンラインサロンへとつなげていく際の入口としても有効です。一方で、対面は参加のハードルが高く、初めての場に足を運ぶこと自体に心理的負担が伴います。</p> <p>オンラインの場合は、発言せずに参加することも可能であり、気軽に参加できる点が大きな利点です。そのため、参加のしやすさという点ではオンラインの方が優れていると考えています。</p>
E委員	<p>続いて、ピアとして関わる意義がある一方で、当事者であるからこそその難しさもあるかと思いますが、その点についてどのように認識し、対応されていますか。</p>
B事業者	<p>私たちも活動の中で、自分の当事者性が支援の妨げになると感じる場面があります。例えば、似た状況の相談を受けた際に、「自分と同じように感じているはずだ」と決めつけてしまったり、自分の経験に基づいて助言をしたくなってしまうことがあります。</p> <p>しかし、そこで一度立ち止まり、「自分は自分、相手は別の人間である」ということを意識し、相手を一人の存在として尊重することを大切にしています。</p> <p>また、活動の後には必ず振り返りの機会を設け、スタッフ同士で対応の適切さについて話し合い、次の支援につなげるようにしています。</p>
E委員	<p>最後にもう一点、本事業ではヤングケアラー本人だけでなく、その家族も支援対象としていますが、どのように取り組んでいくお考えでしょうか。</p>
B事業者	<p>ヤングケアラーの問題は、個人だけでなく家庭全体の課題であると捉えています。</p> <p>ただし、支援を進めるにあたっては、まず本人が自分の状況に気づくことが重</p>

	<p>要です。同じような経験を持つ人の話を聞くことで、「自分もヤングケアラーである」と認識することが入口になります。</p> <p>その上で、関心が深まった段階で、利用できる制度や支援について情報提供を行い、必要に応じて家族への働きかけにつなげていくことを想定しています。本人が安心して話せる場を入り口とし、その先に家族全体への支援につなげていく流れを大切にしていきたいと考えています。</p> <p>(B事業者退出)</p> <p>(採点)</p> <p>(3) C事業者(30分間) 【C事業者のプレゼンテーション】</p>
A委員	ヤングケアラーの事業を実施するにあたり、学校や児童館などへの周知についてお伺いします。
C事業者	<p>当法人が拠点としている自治体では、子ども家庭センターなど行政部署と連携し、支援者連絡会を開催しています。</p> <p>この連絡会には、スクールソーシャルワーカーや児童福祉関連施設、民間の支援団体などが参加しており、現場レベルで気になるケースや子どもの状況について情報共有を行っています。</p> <p>その中で連携を強め、必要に応じて要保護児童対策地域協議会につなげるなど、地域全体で支援体制を構築しています。こうした取組を通じて、日常的に地域のニーズを把握しています。</p>
A委員	母体となる法人では、どのような事業を行っているのでしょうか。
C事業者	<p>当法人は子ども・子育て支援を行うNPO法人です。</p> <p>自治体からの受託により、親子関係形成支援事業や子育て世帯訪問支援事業(家事支援)を実施しているほか、一時預かり事業や認可保育園の運営なども行っています。</p>
B委員	提案書の中にメタバースを活用した会議の記載がありますが、具体的にはどのような運営を想定されていますか。
C事業者	<p>現時点ではメタバースでの実績はこれからという段階ですが、当事者の中には顔出しを望まない方も一定数いると考えています。</p> <p>そのため、匿名性を確保しながら参加できる手段の一つとして、メタバースでの実施を今回提案させていただきました。</p> <p>具体的な運用については、今後試行錯誤しながら構築していきたいと考えています。</p>
B委員	<p>相談対応の体制についてですが、多数のスタッフがいらっしやる中で、オンラインサロンやピアサポートにはどのような体制で関与されるのでしょうか。</p> <p>また、元ヤングケアラーなど当事者の方が関わる仕組みについても教えてください。</p>
C事業者	<p>予算面を踏まえ、業務補助として社会福祉士等の有資格者を1名追加配置することを想定しています。さらに、ピアサポートやファシリテーションについては、当法人の職員に加え、ヤングケアラーの当事者経験のある方にも関与いただくことを考えています。例えば、ゲストとして参加し、ご自身の経験を共有</p>

	<p>いただく形など、状況に応じて多様な関わり方を取り入れていきたいと考えています。</p>
B委員	<p>スタッフの中に、元ヤングケアラー、当事者経験の方はいらっしゃいますか。</p>
C事業者	<p>はい、当事者経験のあるスタッフも在籍しております。</p>
C委員	<p>先ほどのご質問に関連する点ですが、今回ご提案いただいている従事予定のお二人については、いずれも20年以上のご経験をお持ちであり、非常に豊富な知見があると理解しております。</p> <p>一方で、本事業を主にそのお二人で担われるということで、例えば体調不良やその他の事情により不在となる場合の対応について、どのように運営されるのか、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。</p>
C事業者	<p>当法人の正職員はフルタイムで約10名程度と限られておりますが、そのほかに、扶養の範囲内で勤務している職員が多数在籍しており、保育士や保健・福祉系の資格を有する人材も多くおります。</p> <p>そのため、イベントや事業の実施にあたっては、必要に応じて対応可能な職員を個別に調整し、従事してもらう体制をとっております。</p> <p>こうした体制により、特定の担当者が不在となった場合でも、法人全体でバックアップする形で対応していきたいと考えております。</p>
C委員	<p>提案書には明示されていないものの、さまざまな勤務形態のスタッフが状況に応じてサポートに入る体制という理解でよろしいでしょうか。</p>
C事業者	<p>はい、そのとおりでございます。</p>
C委員	<p>今回、オンラインサロンやピアサポートについて、仕様書では3か月に1回程度と想定している中で、それよりも高頻度で、月1回プラス不定期開催といった形でご提案いただいています。</p> <p>大変意欲的な内容であると受け止めておりますが、その一方で、実現可能性や、見積金額との整合性、運営体制とのバランスについて、どのようにお考えか、もう少し詳しくご説明いただけますでしょうか。</p>
C事業者	<p>当法人では、他の事業においても一定の頻度で継続的に取組を実施しており、回数を重ねることで関係性を深めることを重視しています。</p> <p>例えば、ひとり親家庭への支援においては、週単位で何らかの活動を行い、保護者同士が交流できる機会を設けるなど、継続的な関わりを大切にしています。</p> <p>そのため、本事業においても、一定の頻度で実施することが望ましいと考え、このような提案をさせていただきました。</p> <p>一方で、現在の活動地域を前提とした発想が含まれている点もございまして、港区の地域特性を踏まえながら、実現可能性や持続性を含めて、今後調整・検討していきたいと考えております。</p>
D委員	<p>では私から何点かお伺いします。</p> <p>まず、実現性の観点についてです。夜間・休日相談については仕様書では一定の曜日・時間を想定していますが、ご提案では24時間365日対応とされています。実現できれば非常に望ましいと考えますが、具体的にどのような体制で実施されるのか、教えてください。</p>
C事業者	<p>当法人はこれまで、保健師や助産師など医療職を中心に相談対応を行ってきた</p>

	<p>経緯があり、電話相談についても24時間対応を基本としてきました。実際には常時ニーズがあるわけではありませんが、必要なタイミングで対応できる体制を整えてきたという背景があります。</p> <p>本事業においても、仕様書に基づいた時間帯の実施は可能と考えつつ、法人として対応可能な範囲で、より柔軟な対応ができるのではないかと考え、このような提案をさせていただきました。</p>
D委員	<p>例えばLINE相談については、常時リアルタイムでやり取りする想定なのでしょうか。それとも受付はするが、一定の時間差が生じる形でしょうか。</p>
C事業者	<p>電話については鳴動に応じた即時対応を基本としていますが、LINEについては必ずしもリアルタイム対応とはならない場合があります。</p> <p>そのため、自動返信等で受付を行い、例えば一定時間以内に対応するなど、時間差を前提とした運用になると考えています。</p>
D委員	<p>契約金額の範囲内で対応可能という理解でよろしいでしょうか。</p>
C事業者	<p>はい。ただし、港区の地域特性も踏まえ、実際の運用についてはご相談しながら調整していければと考えています。</p>
D委員	<p>もう一点、御社の強みについて改めてお聞かせください。</p>
C事業者	<p>当法人の強みは、ヤングケアラーを含む当事者との継続的な関係性です。多様な背景を持つ当事者との関わりがあり、その経験をピアサポートやオンラインサロンに活かすことができます。</p> <p>当事者が関わることで、参加者にとって気づきや安心感、前向きな変化につながる機会を提供できる点が大きな特徴だと考えています。</p>
E委員	<p>続いて、専門性を高めるための研修について、どのような内容を実施される予定でしょうか。</p>
C事業者	<p>これまでの取組では、ヤングケアラーに関する理解を深めるため、関係機関の方を招いた研修や、グループワーク・ワークショップ形式の学習を継続して実施してきました。</p> <p>その中で、家庭の課題が複合的であるケースが多く、学校や医療など複数の機関が連携する必要があることを強く学びました。</p> <p>また、実務においては傾聴を基本とした対人支援スキルの向上を重視しており、対話を重ねる力を養う研修も行っています。</p>
E委員	<p>資格取得支援についても記載がありましたが、どのような取組でしょうか。</p>
C事業者	<p>職員の中には、これから資格取得を目指す者も含まれています。国家資格については取得支援を行いつつ、民間資格も含めて段階的に学びを深めていく機会を提供しています。</p> <p>資格取得そのものだけでなく、学び続ける姿勢や支援に対する意識を高めることを重視しています。</p>
E委員	<p>最後に、元ヤングケアラーが支援者として関わる場合のリスクについてお伺いします。</p>
C事業者	<p>当事者が関わることで共感が生まれる一方で、過去の経験が影響し、情緒的に負担が大きくなる場合もあります。</p>

実際に、支援の中で過去を想起し、気持ちが不安定になるケースも見られます。
そのため、適切な距離感を保ちながら関わることや、継続的なフォロー体制を整えることが重要だと考えています。

(C事業者事業者退出)

(採点)

4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について (事務局より資料3について説明)

A委員

私はソーシャルワークの視点が非常に重要だと考えています。
その点で言えば、B事業者は一定程度、事業としては遂行できるのではないかと思います。ただし、基本的にSNS中心の取組となっているため、現在のSNS利用状況を踏まえたときに、高校生や中学生、小学生といった層にどこまで届くのか、また支援者との関係づくりにつながるのかという点については、やや懸念を感じています。
一方で、C事業者について、人員体制は整っている印象がありますが、実行力という点では少し気になる部分もあります。
また、B事業者については、資料だけを見る限りでは一定の整理がされているように感じますが、実際にヒアリングや面接を通じて受けた印象とはやや異なる部分もありました。

B委員

今日のヒアリングを踏まえた印象としては、A事業者が最も良いと感じました。全体として非常に丁寧な説明で、利用者に寄り添った支援を行っていただけそうだという印象を受けましたし、理解の深さや経験値の高さも感じられました。また、先ほどA委員からもお話がありましたが、ソーシャルワークの視点がしっかりしている点が評価できると考えています。一方で、B事業者については、継続的な支援のあり方がやや見えにくいと感じました。多くの相談を受けている中の一つとして埋もれてしまう可能性や、支援が断続的になってしまうのではないかとこの点に少し懸念があります。相談員がシフト制で入れ替わる体制についても、オンラインサロンやピアサポートについては固定的に関わるとのご説明はありましたが、全体として継続性の担保という点では、やや気になる部分が残りました。

C委員

B事業者をやや高めに評価しました。
まずA事業者については、皆さんがおっしゃっているとおり、経験値・実績ともに非常に高く、これまでの実践に基づいた説明にも説得力がありました。ただ一方で、行政側の視点から見ると、経験が豊富であるがゆえに、区との調整においてどの程度柔軟に対応いただけるのかという点については、やや気になったところです。
また、ピアサポートに必要な人数や資格などについて、少し具体性に欠ける部分があった点も印象に残りました。
次にB事業者については、先ほどから他の委員の方々もおっしゃっているように、兼務が中心である点や、経験年数が比較的浅い点、また港区に重点的に人員を配置する体制が見えにくい点については、やや懸念を感じました。
一方で、ピアスタッフなどについて一定の継続性を確保するという説明があったことから、組織としては一定程度対応していく体制があるのではないかと感じました。
C事業者については、誠実な人柄や姿勢が感じられ、印象としては非常に良かったのですが、実現性や体制面についてはやや不安が残ると感じました。

D委員	<p>A事業者については、皆様もおっしゃっていましたが、経験に基づいた説明が非常に丁寧で、全体として説得力があると感じました。実績に裏打ちされた安定感があり、安心して任せられる印象を受けました。</p> <p>次にB事業者については、オペレーション面はしっかり整っているのではないかと感じました。ヒアリングの中でも説明は分かりやすく、利用者に寄り添った対応も、場合によっては十分に期待できるのではないかと受け止めています。そのため、A・Bいずれの事業者であっても、一定の水準で事業は実施できるのではないかと印象です。</p> <p>一方で、C事業者については、前向きな姿勢や誠実さは非常に感じられましたが、やや無理をしてでも実施しようとしているようにも見受けられ、実現性の面では少し懸念が残りました。</p>
E委員	<p>私も先ほどの議論を伺いながら、ケア事業の在り方について改めて考えさせられました。</p> <p>一方で、大学で現在の若い世代を見ていると、SNSの活用は私たちの理解を超える形で広がっており、その点は非常に重要な視点だと感じています。ただし、SNSは利便性がある一方で、安全性やセキュリティの確保といった点を十分に踏まえた運用が不可欠であり、単にツールを使うだけではなく、その扱い方が問われる領域だと考えています。</p> <p>また、ピアサポートについては、当事者が関わることの意義は大きいと感じる一方で、同じ経験が必ずしもそのまま共感につながるとは限らず、支援としては繊細でリスクも伴うものだと思います。</p> <p>その点について確認させていただいた際に、やや不安を感じる部分もありました。ただし、これ自体が大きなマイナス評価というよりは、今後の運用において丁寧に検討していく必要がある点だと受け止めています。</p> <p>またB事業者については、港区のアンケートを踏まえて提案されているのかという観点では、説明の一部にややかみ合わない印象を受ける場面もあり、その点は少し気になりました。</p> <p>資料としては整理されているものの、実際の理解や運用にどこまで反映されているのかという点は、慎重に見ていく必要があると感じました。</p> <p>C事業者については、全体として誠実さや熱意が感じられ、地域に根ざした関わりの重要性を改めて認識させられた点は非常に良かったと思います。</p> <p>一方で、専門性や体制面についてはやや不安を感じる部分もあり、総合的にはその点を考慮する必要があると感じました。</p>
委員長	<p>各委員からの講評を踏まえて審査に当たって意見交換を行いました。皆さんのご意見を聞かれて、何かございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
委員長	<p>意見交換を踏まえ、ご自身の採点について振り返る時間を設けます。採点を変更される委員の方はいますか。</p> <p>(変更なし)</p>
委員長	<p>それでは、B事業者を事業候補者として選定します。</p> <p>5 その他 (事務局から今後の流れを説明)</p> <p>6 閉会 (委員長より閉会の挨拶)</p>